



年頭所感

より確かな安全・安心を

青少年健全育成町民会議

青少年健全育成町民会議

代表 笠井 正憲

日ごろより、町民の皆さまには青少年健全育成活動に対して深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。さて、新しい年を迎え、子どもたちの輝く未来を期待する1年にしたいと強く願っています。子どもたちが安全で安心して日々の生活を送ることのできる豊かな社会を創り出すことが、私たち大人や社会の責務であると考えます。そこで私は、昨年のさまざま出来事が今までの常識ではありえないことであり、ただ流されてはおかしくないことになり、その結果を子どもたちに背負い込ませることになるのではないかと心配しています。

具体的には健康と食の問題です。子どもたちの健康に関してさまざま視点からのアプローチがあります。その一つである病気予防に関しては各種予防接種が行われ、大きな効果をあげています。しかしその一方で、少なくない副反応による事故の事例が報道されています。

受けるか受けないかは自己責任になっていきます。親がしっかりと判断して子どもの健康を守らなければなりません。次に食の問題です。

一流のホテルや料亭も含む日本中で行われていた食品の偽装表示が大きな問題となっています。また、福島第一原発事故による放射能汚染は依然として止まっておられません。スーパーに並んでいるさまざまな食品、ホテルやレストランでの食事、本当に安心して口にしているものか、大きな不安を感じるところです。成長期にある子どもたちにとっては、より大きな影響を受ける不安があります。

北海道は福島第一原発から遠いし、もう終息したから問題ないと思いませんか？しかし、汚染水の流出、食品汚染、避難区域立ち入り禁止など依然として大きな問題を抱えています。

また、チェルノブイリの例にありますように、これから乳幼児、小中学生、高校大学生に内部被ばくでのさまざまながんの発生が心配されます。食品が本当に安全なものか

に疑問を持ち、自分自身で確認することです。その情報はネット上に出ています。しかし、その情報が信頼できるかどうかの判断も、自分自身でしなければなりません。

放射能物質の基準値を引き上げていることも「ただちに健康に被害は出ない」としつつも不安材料です。

これからは食の常識が大幅に変わると思っています。一部ではすでに変わっています。安心は、自分で勉強して確認しなければならぬ時代になったということだと思います。子どもたちのため、共に勉強していきましょう。

本年も子どもたちの健やかな成長を願って青少年健全育成町民会議の活動を進めていきますので、皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

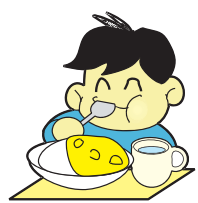
新十津川町を背負って立つ子どもたちがたくましく健やかに育ってくれることを願って新年のご挨拶といたします。

研修会より
ネット通信は親の管理下で

第2回理事会の後、研修会を実施しました。総進区の小林理事・橋本区の野澤理事より地域の取り組みや子ども会の様子が報告されました。

続いて、滝川警察署の角田氏より少年犯罪が全道的には減少しているが、滝川署管内では大きく増えたことが報告されました。さらにいじめやネット犯罪の情報提供もされました。いじめは目的に到着がないためエスカレートしやすい傾向がある。解決には相談できる大人の存在が重要であること。

また、ネット上での通信は、少し詳しく調べると発信元を把握できるようになっている。匿名性を利用したいたずら半分の書き込みでも、発信元を特定して犯罪処理する場合があります。ネット通信には十分注意する必要があります。ゲーム機からでもネットにつながる時代です。フィルタリング（閲覧規制）等の機器管理を行い、ネット犯罪の危険から子どもを守ることは親の責務です。



学ぼう明日へ！サポート通信 22

小・中学校の連携による学習指導

乗り入れ授業とは

本町では、中学校の教師が小学校で授業する機会が設けられています。一方、小学校の教師が中学校に行つて生徒を教える場面もあります。例えて言うなら「出前」のような授業です。これを異校種間連携による相互乗り入れ授業といいます。

今年度の乗り入れ授業

平成25年度は乗り入れ授業として、3名の中学校教師が、6年生社会（歴史）、5年生国語（古典）、4年生理科を各2時間指導しました。中学校の先生は専門性を大いに発揮し、子どもたちを引きつける授業を展開しました。授業後、多くの児童は「楽しかった」「とても勉強になった」という感想を述べています。冬休み明けから、小学校の教師が中学校で体育（剣道・ダンス）の乗り入れ授業を行う予定です。

乗り入れ授業に類似した形態として、巡回指導教員活用

事業があります。これは、中学校に配属されている数学教師（巡回指導教員）が、小学校で担任と一緒に算数指導（5・6年生）をする取組です。乗り入れ授業と異なり、通年で毎週火・木曜日に授業を実施しています。

乗り入れ授業のねらい

小学校と中学校の連携による乗り入れ授業を導入した主な目的は三つあります。

第一は、教師の専門教科や得意分野を生かした指導によって、学習への興味関心を高めることです。指導者の高い専門性が、児童生徒に学ぶ楽しさや喜びを味わわせ、学習意欲の向上をもたらします。



【中学校教師による理科授業】



【中学校の剣道授業】

第二は、小学校から中学校へのスムーズな移行を促すことです。中学校への進学を控えて、「勉強が急に難しくなるので、授業についていけないだろうか」「先生はどんな教え方をするのだろうか」といった不安を抱く子は少なくありません。しかし、乗り入れ授業を通して、小学生が中学校の先生と直接関わりをもつことで、さまざまな不安感が軽減されます。中学校の教師も高学年児童の様子が分かるので、進学後の指導に生かすことができます。

第三は、乗り入れ授業が指導方法の工夫改善を図る契機となることです。小学校と中学校では、それぞれ教え方に

特長があります。双方の教師が互いのよさを学び合うことで、より充実した授業づくりが可能となります。北海道において学力向上は重要な教育課題の一つです。確かな学力の育成を目指して、小中学校の連携に基づく教育活動が着実に進行しています。

ほっかいどう
学力・体力向上運動
子どもたちが夢や目標を実現できるよう、
道民みんなで支えていきましょう